

コロナで芽ばえた！ 新たな手法を使った 地域福祉活動

新型コロナウイルスの感染拡大により、見守り訪問やサロン活動など、地域福祉活動の中止や制限せざるを得ない状況が続ぎ、ひとり暮らし高齢者や障がい者等の孤立などさまざまなリスクが懸念されています。
今回は、府内の各市町村で取り組まれている、地域のつながりを絶やさない、新たな手法を取り入れた地域福祉活動を紹介します。

ご近所づきあいができる
「魔法のクルマ」

IBARAKI コミュニティ・カーシェアリング

茨木市社会福祉協議会



「あれがしたい！」「こんなことでいいのかな...」。

こんな風になんかで思い巡らせ、コロナ前のようにワイワイと楽しく、活気のある地域を取り戻したい。

IBARAKIコミュニティ・カーシェアリングは、そんな願いから生まれたプロジェクトです。

コロナ禍で外出機会や住民同士の交流が減る中、茨木市社協では府の助成金(〇)を活用して地元レンタカー業者から車をリース。地区福祉委員会同士で車をシェアする仕組みをつくり、それぞれの地域でオリジナルティあふれる取り組みが展開されています。

「お買い物の旅へ、レッツ号！」

豊川地区では、「近くにスーパーがなく、買い物不便」という地域住民の声から、買い物支援を考案しました。商

業施設へ送迎する南北2つのルートを組み、3月から週2回の運行を始めています。クルマの名前は「レッツ号」。豊川小学校の子どもたちが名付け親です。

ドライバーは安全運転講習を受けた福祉委員やボランティアで、送迎だけでなく、車中での会話を通じて人と人が心を通わせあう場と時間も生み出します。

橋本和幸福祉委員長

「たくさん商品を見て、手にとり、買い物を楽しんでほしい。課題は運転ボランティアの確保。福祉委員だけでなく、仕事をリタイアした人などにもお助け隊として広く参加してもらえれば」と期待を込めて話します。

あなたの町に、りんりん号がやってくる

一方、玉櫛地区では、出前サロン「り

運行のようすや利用者へのインタビュー動画はこちらから



りんりん号」を運行しています。

『自宅から会場までは遠くでサロンに参加できない人がいる』という以前からの課題と、人数制限や時間制限というコロナ禍で生じた課題を、コミュニティ・カーシェアリングの車が見事に解消。サロンのノウハウをもつて、福祉委員会から住民に近づくと、そこで暮らしやす人が気軽に参加できる場所を創り出すことが可能になりました。

これからも地域のあちこちに出向けば、今まで関りの無かった人たちとつながることが出来るはず！と福祉委員の皆さんは無数の可能性を感じています。

熱い想いから 優しさまでシェア

プロジェクトの仕掛け人である茨木市社協の佐藤遼さん。大切にしているのは、福祉委員会の皆さんと社協の地区担当者が一緒に創りあげていくことだと話します。

当初、「こんな本当」でいいのか。「安全面は大丈夫？」などと心配の声もあがったものの、話し合いを重ねる

中で「失敗してもいいやん。とりあえずやってみよう」と合意形成を図ってきた。

車を通じてみんなの想いをカタチに。地域の熱い想いから優しさまでシェアする車が今日も茨木の町を走ります。

大阪府福祉基金地域福祉振興助成金「ウィズコロナ、ポストコロナ」に対応した地域活動モデルの開発

オンラインで楽しむ！
つながる！

リモボラ (リモートボランティア活動)

柏原市ボランティア連絡会
× 柏原市社会福祉協議会

「離れていても心でつながる」
新しい地域福祉活動のかたち

コロナ禍により、活動の機会や活動場所が無くなり、地域のボランティアも元気をなくしていました。

「コロナ下でも何かできることはないか？」と柏原市ボランティア連絡会と柏原市社協が連携し、動画撮影とインターネットでの動画配信を試験的に始めたところ、市内の社会福祉施設の利用者から「またボランティアさんに会いたい」という多くの声がありました。

こうして、「離れていても心でつながる」新しい地域福祉活動のかたち「リモート・ボランティア活動(通称リモボラ)」がスタートしました。

リモボラでは、ボランティアや保育園の子どもたちがインターネット会議アプリ「Zoom」を通じて施設に入居しているお年寄りへ歌やメッセージを届けるなどさまざま

リモボラ紹介動画はこちらから



な活動が行われています。

コロナ禍でも Goto ボランティア

柏原市ボランティア連絡会と柏原市社協の共催により、3月13日(日)に「エンジョイリモボラ展」が開催されました。

このイベントは、市内4拠点をZoomで同時生中継し、10を超えるボランティアグループが歌体操や演奏、読み聞かせなどの活動をオンラインで披露。動画編集などリモボラの活動をサポートする学生ボランティア「輪」のメンバーが司会やインタビュアーなどを



写真左から、学生ボランティア「輪」代表 西川 奈緒さん、柏原市ボランティア連絡会 会長 坂本 茂人さん、柏原市社協 高林 宏希さん



当日のリモボラ展のようす
離れていても
心でつながるボランティア

務めました。

柏原市ボランティア連絡会会長の坂本茂人さんは、「ボランティア自身の活動したい」という思いを実現し、ボランティア自身も楽しむことを大切にしたい」と開会挨拶。

柏原市社協の高林宏希さんは「リモボラをもっと身近に活用してもらえ

よう仕組みを整え、ひとり暮らし高齢者や外出が難しい方にも届けていきたい」と今後の展開にむけて熱い思いを語ります。

ボランティアの語源にある「自主性・自発性」を大切に、今できるボランティアをできる形でエンジョイ！そんな新しいチャレンジが始まっています。



ご近所にサロンがやってきた！
「子どもやババママ、
お年寄りもみんなおいで〜♪」